

# 平成 23 年度 事 業 計 画

(2011 年 4 月 1 日～2012 年 3 月 31 日)

本年度における本会の主な事業計画は次のとおりである。

## 1. 機関誌の刊行

### (1) 日本音響学会誌の刊行

本年度は、67 巻 4 号～12 号、68 巻 1 号～3 号の 12 冊を毎月 1 日(1 号は 12 月 25 日)に発行し、会員に配付する。

1 号当たりの平均ページ数は、本文 80 ページ、会告 15 ページ、広告 10 ページを予定する。

66 巻 1 号～12 号及び AST 誌 Vol. 31 No. 1～No. 6 を併せて CD-ROM に収録して会員に配布する。

### (2) Acoustical Science and Technology 誌の刊行

本年度は、Vol. 32 No. 3～6、Vol. 33 No. 1、No. 2 の 6 冊を 1 号当たり平均 55 ページとして、2011 年 5 月、7 月、9 月、11 月、2012 年 1 月、3 月の各 1 日に発行する。2011 年発行の Vol. 32 は会員に冊子を配布するが、Vol. 33 からオンラインジャーナルとする。なお、(独)科学技術振興機構が主催する J-STAGE にオンラインジャーナルとして掲載し、海外への普及も図る。

## 2. 研究発表会の開催

研究発表会を春と秋に開催し、そのつど講演論文集(CD-ROM)を発行する。

春季；2011 年 3 月 9 日～11 日、東京都新宿区・早稲田大学西早稲田キャンパスにおいて開催する。また、学生並びに研究発表会に新たに参加する会員を対象に歓迎行事(新人盛会)を実施する。

秋季；2011 年 9 月 20 日～22 日、松江市・島根大学において開催する。今回の研究発表会は、島根大学と共催して実施する。

春季及び秋季研究発表会にあわせて、ビギナーズセミナーを実施する。

## 3. 特別企画の開催

会員並びに一般市民を対象とする特別の催しを随時計画・実施する。

## 4. 調査・研究の実施

### (1) 研究会の開催

超音波、騒音・振動、電気音響、音声、聴覚、建築音響、音楽音響、音響化学及びアコースティックイメージングの 9 研究委員会をおき、音響に関する学理の解明、技術の普及のための定例の研究会を開催する。研究会は原則として公開とする。

### (2) 調査研究委員会の開催

音響教育、音バリアフリー、音と脳科学、道路交通騒音、熱音響技術及び音のデザインに関する 6 調査研究委員会をおき、それぞれ調査研究を実施する。その他特に必要と認める調査・研究については、そのつど委員会を設けて作業を実施する。

### (3) 音響規格の調査、作成

ア. 日本工業規格(JIS)の 5 年毎の見直し、国際規格との整合化等に係る諸作業を実施する。

イ. ISO/TC 43(Acoustics)、同 SC 1 (Noise)及び同 SC 2 (Building Acoustics)が担当する国際規格の審議と原案調査作成を実施する。

ウ. IEC/TC 29(Electroacoustics)が担当する国際規格の審議と原案調査作成を実施する。

エ. ISO/TC 43、同 SC 1、同 SC 2 総会及び IEC/TC 29 総会に委員を派遣する。

## 5. 国際会議の開催・準備

- (1) 2011年8月1日から4日の間、早稲田大学国際会議場（東京都）において共催する第19回非線形音響国際シンポジウム（ISNA 19）の開催に協力する。
- (2) 2011年9月4日から7日の間、大阪市において共催する第40回国際騒音制御工学会議（INTER-NOISE 2011）の開催に協力する。

## 6. 選 奨

### (1) 功 績 賞

音響に関する学術又は関連事業に対し、特別の功労があり、その功績が顕著である者3名以内を選定して本賞を贈呈する。

### (2) 佐藤論文賞

2010年1月から12月、及び2011年1月から12月までの2年間に日本音響学会誌（和文誌）並びに Acoustical Science and Technology 誌（英文誌）に掲載された論文中から優秀なもの2編以内を選定して本賞を贈呈する。

### (3) 栗屋 潔学術奨励賞

春季並びに秋季研究発表会で優れた研究成果を講演発表した新進の研究・技術者の中から各発表会ごとに5名以内、合わせて10名以内を選定して本賞を贈呈する。

### (4) 独創研究奨励賞 板倉記念

音声処理に関する独創的な研究成果を発表した若手研究者2名以内を選定して本賞を贈呈する。

### (5) 環境音響研究賞

環境音響学の発展に貢献した、主として建築音響分野又は騒音分野に関連する一連の研究を対象に毎年2件以内を選定して本賞を贈呈する。

### (6) 技術開発賞

音響に関する工学技術の進歩発展に貢献した本会賛助会員を対象に3件以内を選定して本賞を贈呈する。

### (7) 学生優秀発表賞

春季並びに秋季研究発表会で優秀な発表を行った学生会員の中から各発表会ごとに選定して本賞を贈呈する。

## 7. 音響学普及のための事業

- (1) 「音響テクノロジーシリーズ」の編集作業を推進し、順次刊行する
- (2) 「音響入門シリーズ」の編集作業を推進し、順次刊行する。
- (3) 「音響サイエンスシリーズ」の編集作業を推進し、順次刊行する。
- (4) 技術講習会を計画実施する。
- (5) シンポジウム、セミナー、講演会、見学会等を随時計画実施する。

## 8. 支部の活動

関西支部、東北支部、東海支部、九州支部並びに北陸支部において研究会、講演会、見学会等を随時実施する。

## 9. 国際交流

国際音響学会（ICA）、国際騒音制御工学会（I-INCE）の総会等に参加する。国際音響学会議（ICA）、国際騒音制御工学会議（INTER-NOISE）、西太平洋地区音響学会議（WESPAC）等の開催に協力するなど、国際交流に努める。

## 10. 若手研究者育成・活性化事業

学生会員及び若手研究者の育成・研究活動の活性化を促す目的の事業を随時開催する。

## 1 1. 学会の将来計画

- (1) 学会活動のあり方・会員サービス・組織と運営等に関する将来計画について、企画委員会を軸に幅広く審議し、可能なものから実施する。
- (2) 音響学に関する学術・研究振興のための長・短期的な方策及び現状の改善について、学術委員会を中心に、関連委員会と協働して審議立案する。
- (3) 学会活動の継続、活性化を担保するため学会の経済状況を改善するための施策を検討し実施する。

## 1 2. 公益法人制度改革への対応

公益法人制度改革の施行に伴い、一般社団法人への移行申請の準備を推進する。